

**【議題1】 第62回研究大会のまとめと反省**  
**(研究内容、方法、研究授業、研究発表、授業力向上のための講義等)**

I 工夫・改善が加えられた事項、効果的で成果のあったこと

II 今後、工夫・改善が必要と思われる事項

III 大会前の諸準備、諸会合について  
 会場校の決定、地区研、事前研、資料など

IV 大会当日の運営や内容について  
 日程、授業、発表、協議、アドバイザーなど

V 各研究部独自の意見や要望

○…成果 ●…改善点及び課題  
 △…提案

**<国語部会>**

I

[新川地区]

- コラムの流れをつかむ授業としては分かりやすいと感じた。コラム練習が続けられれば成果が出ると思われる。
- 「書くこと」の学習を総合的な学習と関連付けて横断的な学びを展開していた。
- 今回の授業ではコラムが使われていたが、授業内で使われたコラムが生徒にとって身近な話題で、違う切り口のものとなっていた。読みやすく比較もしやすかったので、参考にしたい。
- 教科書以外の教材が開発されており、大変参考になった。生徒は展開の異なる二つのコラムを比較することで、楽しみながら学習課題に取り組んでいた。
- 授業力向上のための講義では、米田先生の実体験に基づいた具体例が多く、分かりやすかった。指導する際に見落としがちな内容も、詳しく教えていただけたのでありがたかった。**

[富山地区]

- 付箋をレポートに貼り合うことで、生徒は意欲的に活動に取り組むことができていた。また、事前の丁寧なレポートの見取り、課題の与え方が効果的であった。「班→全体→個人」の流れも自然であり、生徒の動きがスムーズであった。
- ジグソー学習を行う前に、一斉学習の形態で読み取りを行ったことで、課題に向かう準備ができた。ジグソー学習を取り入れることによって、より多くの生徒が授業に主体的に参加することができた。また、男女の座席配置を市松模様にする工夫によって、グループ学習が円滑に進んだ。
- 研究発表では、ワークショップを行い、授業実践を体感することで、より実践的な発表となった。

[高岡地区]

- 学習課題「芭蕉はどんなことを思って涙を流したのだろう」について、根拠を基に、自分の考えをしっかりとつ生徒の姿が見られた。
- 芭蕉の眼前にあるものと心に浮かんだものを比較させたことは、課題を解決する上で、ヒントになっていたのが効果的だった。
- 黒板の横にNHKの画像が掲示されるなど、「奥の細道」の情景を想像しやすくなっていた。**
- 現代語訳や内容の整理についての設問が記されたワークシートが、生徒が学習課題を考える際の助けとなっていた。
- タブレットPC等のICT機器を交流活動に生かした氷見市の取組が、とても参考になった。
- 少人数での協議会は、話しやすく、多くの先生方の意見が聞けてよかった。また、授業参観の前に付箋が配付されたので、事前に協議内容を整理することができてよかった。**

[砺波地区]

- 生徒の実態を把握し、付けたい力を明確にした授業であった。一つの風景写真から生まれた一句を推敲することにより、語句の選択や語順の入れ替えによって新しい俳句が生まれることに気付くことができた。推敲の視点を意識することによって、創作の面白さや言葉の面白さに気付き主体的に学習に取り組めるように配慮されていた。
- 生徒一人一人の言葉に対する意識の高さや創作を楽しもうとする意欲の高さが授業の随所に見られた。日頃の授業における語彙指導の積み重ねがいかに大切に改めて考えさせられた。**
- モデルを提示し、全体で推敲を学び共有してから、グループの推敲に入ったことで、生徒は見通しをもって学習を進めることができた。
- 授業力向上のための講義は、今回の授業の内容ともつながる点が多く、学ぶことが多かった。

II

[新川地区]

- △授業での生徒の活動がやや少なかった。ワークシートの工夫や言語活動の確保が、授業の充実や、その時間の達成度につながると感じた。
- △**今回は授業前のオリエンテーションを行わなかったが、授業を見る観点を事前に示してもらった方が協議の話合いを進めやすかったと思われる。**
- △研究協議の前に、気付いたことを付箋に書いてホワイトボードにみんなで貼ったが、それを読み合ってから協議に入ると、より深まりのある内容になったのではないかと。

[富山地区]

△「全員一律にレベルの到達」と考えすぎず、個々のレベルに合わせた学びのデザインをすることも大切である。

- 元の班に戻った後の活動が一方的な報告になった。意見交換ではなく意見の交流を図るべきだ。
- 最後の場面を読み返して共通理解を図り、本文の記述に戻る学習を心掛ける必要がある。

[高岡地区]

●ホワイトボードに生徒がたくさん意見を書いていたが、その後、教師の指名発言のみで授業が進んでしまった。よい意見を全体に広めたいという意図は理解できるが、時間の関係上、全ての班が指名されたわけではないので、出された一つの意見に対して、同じように考えた班に挙手させる等、全体を巻き込みながら授業を進めたらよかった。

- いろいろな意見が出たのはよかったが、生徒にとってはどれが正解なのか疑問が残ったのではないのか。何がゴールなのか、ワークシート（まとめ）がどのような形になっていたらよかったのか。
- 交流活動を取り入れる意図を明確にする必要がある。交流を通して、自分とは違った友達の意見に触れ、多面的・多角的な見方を広げていくことをねらいとすることができる。

[砺波地区]

△本時は「感動や気付きが伝わるように」という課題であったので、自分が一番伝えたかった「感動、気付き」は何かを明確にしてから、話し合い、推敲を行うと、それができたかどうか明確に評価できた。

△「感動が伝わるように」という課題がしっかりと生徒に伝わらず、推敲のポイントや話し合いのポイントがあいまいになってしまった部分があった。ねらいとする部分をしっかりとおさえることで、生徒の気付きも深まり、自己評価もできていくのではないのか。

- 学びのbefore afterがはっきりしており、生徒にとって学習の成果を感じやすかったと思われるが、振り返りとしては、自分の言葉で今日の学びが示せるとよかった。

### III

[新川地区]

△どうしても会場校や授業者に負担がかかってしまう。より改善が必要である。

[富山地区]

△教科の中で、先々までの会場を決定している。教科ごとの計画なので、今回のように複数教科開催の学校が生じる可能性がある。

[高岡地区]

△会場都市については、これまで通りで問題ないと思われる。一方で、会場校については一考の余地があると考えられる。高岡市では、数年前から研究大会での授業未経験者が順番に行う形をとっており、その先生が所属する学校が会場校となる。中堅教員が少ないことと若手教員の増加により、近年は採用5年以内の先生が研究授業をおこなっている。若手研修との違いが明らかでない研修に対して、開催意義を感じられないベテラン教員もいる。経験を積んだ先生方の授業を参観し、より深い学びを共有できる形の研究大会になるよう、若手教員研修を終えた先生方の中から授業者を決めていく必要があると思う。

△氷見市の発表資料は、直前の市の研究大会の内容を受けたもので、締切までの短期間に素晴らしいも内容のものを仕上げられた。ただ、時間の制限もあり、会員数の少ない郡市は大変だと感じる。

△高岡、射水、氷見の3市の教員が集まっているが、学校行事や市の中教研等それぞれの日程であるため、事前準備の日を決めるのも大変限定的な状況だった。

△国語部員の減少と年齢のかたよりのため、同じ教員が何度も研究授業を行うのは、負担が大きい。

[砺波地区]

△砺波地区では、砺波市、小矢部市、南砺市の3市で持ち回っている。南砺市では小規模校を除いた学校で会場校を決めてきた。しかし、各学校の規模の縮小による会員数の減少、年齢構成のかたより等もあり、今後の決定については検討が必要と思われる。

△研究主題初年度であり、昨年度までの実践を発表することができず、市研究大会から製本までの一週間で資料を作成しなければならなかった。9月26日までに製本完了という制約について、もう少し後に延ばしていただければよいお願いしたい。

### IV

[新川地区]

○美術室で授業をすることで広々と見ることができた。しかし、生徒間の机の間隔がもう少し広ければ生徒の活動の様子をもっとよく見られたかと思う。また、全面の掲示が白い模造紙で覆われていて、生徒への配慮が十分なされていると感じた。

△研究協議で、先生方が付箋に書かれた意見を見ることができなかったので、いくつかの指導案に付箋を貼り、ポスターセッション形式で見て回る時間があればと感じた。研究授業を見る視点を若い方々に伝えるためにも必要かと思う。

△オリエンテーションの時間があれば、授業者の意図するところにポイントをおいて研究授業を見られたのではないのか。

△開始時間の関係で、遠方の場合、学校運営に支障が出るので見直しがあるとよい。  
△運営や研究も含めた授業準備等は、どうしても会場校や当該郡市に負担がかかる。当該郡市になるべく負担をかけないような配慮が必要である。例えば、研究推進や作問等は他郡市で引き受けるようにすればよい。

[高岡地区]

△週末に学習発表会が行われる学校が多く、慌ただしい。開催時期について見直しが必要である。  
△研修授業や発表において、もっと提案性があるとよい。県の主題も「言葉に対して自覚的に思考・判断・表現する言語活動を通して、国語の能力を高めていくための指導はどうあればよいか」というものなので、文学や古典の定番教材に限らず、言葉そのものにもっと焦点をあて、深めるようなものがあってもよいのではないかと。  
△コンピュータとプロジェクタの接続の不具合であろうか、本番でスクリーンに投影できないというトラブルがあった。①会場校からパソコンをお借りする、②プレゼンテーション用のデータを事前に会場校に送る、などの対応を考える必要がある。  
△グループ協議①は班に分かれて話し合ったため意見が出やすかったが、時間も短く、班の数(11班)も多かったため、出された意見に対する授業者の考えが聞けなかったことが残念だった。  
△部会協議②でプロジェクタが動かなかったのは残念だった。来年以降、発表される市の皆さんが情報(例えば、今回の不調の原因等)を共有できるようなシステムがあるといいと思う。Webでの情報交換が可能になればいいと思う。  
△グループ協議が充実していたが、その分協議時間が足りなかった。  
△協議や質問の時間が十分に取れないことと、発表資料の準備にかかる時間がとりづらいことから、研究発表は入れず、講演会や講義を入れたらよいのではないかと。

[砺波地区]

△アドバイザー講義があったため、短時間での協議となった。全体協議でも十分に多くの意見が交わされたが、意見が出ないことも考えて、事前に協議の視点を示したり、グループ協議を取り入れたりすることも一考の余地があったのではないかと。

[新川地区]

**○授業力向上のためのアドバイザー講義については、ためになることが多いので、今後も継続できるようにしてほしい。**

[砺波地区]

○ぜひ、これからも続けてほしい。現場のことをよく知っている講師の方をお願いしたい。  
○語彙・語感に関わる教員の視点のもち方や、授業のヒントになる内容の講義であった。今後も普段の現場では気付かないような視点から、今後の授業の参考になる内容についての講義をいただければと思う。

## V

[新川地区]

△開始時刻を遅らせてほしい。地区内でも遠方であった場合は早めに教員が抜けていくことになり、生徒が学校にいるにもかかわらず、人員が手薄になっていた。特に小規模校は影響を受けやすいと思われる。  
△授業研究にもっと時間をかけたい。内容をオリエンテーション、授業、協議会にして、協議会にもっと時間をかけられるようにしてはどうか。  
△指導主事の先生に、今までに参観された実践等からいくつか紹介していただく時間があると、今後の参考になりそうである。研究発表の代わりに行って見てもよいのではないかと。

[高岡地区]

△部会協議②は発表ではなく、講演会(講義)をした方がよいのではないかと。授業力向上のためのアドバイザーの講義を希望する参加者の声も多い。  
△部会協議②の持ち方について、部員数が少ない(本大会の出席者は射水市20名、高岡市32名、氷見市8名)ため、研究発表について、高岡市を含め、射水市、氷見市の3市のローテーションを再考する必要がある。  
△「言葉に対して自覚的に思考・判断・表現する」ことを意識できるようにするため、各地区の事例に学び、来年度の研究計画を作成する際に明記する必要がある。  
△研究協議②で提案された「ICTの活用」は生徒一人一人の意見を速やかに共有することが可能になることが予想される素晴らしい取組であると考え。一人一台、ぜひ実現してほしい。

## <社会部会>

### I

- ICT機器(タブレット)を活用した生徒の発表は、活発な意見交換を行ううで効果的であった。(新川)
- 授業で使用された資料は、生徒の思考力・判断力を育てるうで効果的であった。(新川)
- 参観者には、事前に授業の視点が明確に提示されており、意識しながら授業を参観することができた。(新川)
- 協議会においては、様々な年齢層を混ぜたグループが編成されており、どのグループにおいても活発な意見交換がなされていた。(新川)
- 事前に講師(岡崎教授)に指導案を検討していただいたことで、研究授業がよりよいものとなった。(富山)
- 市の8月部会において、部員全員でグループに分かれて指導案検討を行ったことで、授業のねらいが明らかになった。また、部会全員で授業を作り上げるといった雰囲気が高まった。(富山)
- 学習課題を生徒自身に考えさせたことは、生徒の主体的な学びを育むうで効果的であった。(富山)
- ホワイトボード上で付箋を動かしながら考えることで、結論を導き出す思考の過程を可視化することができた。(富山)
- 地域教材を活用したことが、生徒の学習意欲の高まりにつながった。(高岡)
- 色分けするなど資料を分類する活動が、生徒の思考の深まりに効果的であった。(高岡)
- アドバイザーの講義は、研究授業を基にした内容であり、実践的で分かりやすかった。(高岡)
- 評価の観点の再編統合等について、アドバイザーから具体的に説明していただいたことで、新指導要領について具体的なイメージをもつことができた。(高岡)
- 知識の構造図を作成し、指導に生かすよう努めたことで、習得させたい知識や技能等が明確になり、授業の軸ができた。(砺波)
- 複数の資料を読み取らせたことで、多様な視点が生まれ、生徒は意欲的に授業に取り組むことができた。(砺波)
- 前時の授業でゲストティーチャーを活用したことで、生徒は具体的なイメージをもって授業に臨むことができた。(砺波)
- チョコレートやユニセフのCM等、身近な題材を課題に取り上げたことで、生徒はアフリカの貧困の問題について、自身の生活と比較しながら意欲的に考えることができた。(砺波)

### II

- 教師の発問内容が、答えが限定されるものが多くあり、今後はより多様な答えや意見が出てくる発問内容を考えなければならない。(新川)
- 資料の数は多かったが、どの資料を見ればよいか迷っている生徒もいたため、資料を精選することも必要である。また、今後は生徒自らが必要な資料を資料集等から探すことも必要である。(新川・砺波)
- 積極的にグループ活動は取り入れられていたが、今後は話合いの目的や指示等を明確にすることで、より焦点化された話合いとなるよう工夫しなければならない。(新川)
- グループ活動における作業は、協力して考えを深めるというねらいからも、より簡単なものにする必要がある。実際に本授業においても、作業に集中し話合いが進まないグループも見られた。(富山)
- 「根拠」と「主張」の間には、必ず「理由付け」があるため、区別を明確にした上で、「理由付け」について話し合うよう投げ掛ける必要がある。
- △グループの話合いで用いたホワイトボードは、その後の話合いでもぜひ活用すべきである。考えのずれを明らかにしたり、「なぜそう考えたか」について話し合ったり、意欲的に話し合う上での手立てとなりうる。(富山)
- 生徒の発言の価値付けは、教師ではなくぜひ生徒自身にさせたい。生徒自身が価値付けることを通して、初めて主体的・対話的で深い学びとなりうる。(富山)
- 事後協議において、質疑応答に多くの時間を割いてしまった。指導案を配布した段階で、事前に質問内容を送ってもらうなどの工夫が今後必要と考えられる。(協議の開始時に、事前にいただいた質問に対してまとめて授業者が答える)(高岡)
- アドバイザーから指摘をいただいたように、知識の概念図、全体計画と評価、研修主題解明のための手立て等を指導案の中に記載していくことが今後必要である。(高岡)

### III

- △資料の製本について、今後は各校にメールで配信し、それぞれ製本してもらった方が効率的ではないか。(新川、高岡、砺波)
- △地区研究会について、富山地区単独で行う教科については、今後会場校で行った方が何かと効果的で意味があるように思われる。(富山)
- 指導案の検討について、市の部会としてどのように協力するか、アドバイザー(指導主事)の助言をどのような形でいただくか、さらには授業者本人の意向をどのように生かすか等、多くの課題がある。(高岡)

### IV

- 全体の運営上仕方がないが、部会協議の時間が短く感じる。せつかくの提案授業に対してもう少し時間をもって協議したい。アドバイザー事業に該当しない地区は、研究発表をやめ、協議時間(部員によるワークショップ等)に充ててもよいのでは。(新川、高岡)
- △その他として、「研究大会を終えて」については、郡市単位で作成するのではなく、郡市部長の意見を集約した上で、各地区で一部作成する形にならないか、といった意見も出た。

## <数学部会>

### I

#### 【新川地区】

(研究授業について 1 学年「方程式」)

- 貯金箱を用意するなど、生徒にとって身近な題材で、生徒が問題を想起しやすくするための準備ができていた。
- 班ごとに話し合うことで、各自の意見を発表する機会が与えられ、参加しやすい工夫ができていた。
- 班に一台移動式のホワイトボードが与えられ、考えをまとめ共有するための工夫があった。
- 広い授業会場で参観しやすかった。

**○各班ごとに話し合い活動の経過を観察する担当者を配置してあったので、話し合いの過程を知ることができ、よかった。**

(研究協議について)

- 赤・青の付箋によかった点・改善すべき点を授業中に書く形であったが、事前のオリエンテーションで研究の視点を明確にされたことで、焦点を絞った協議ができた。

**○部会協議で、郡市ごとに意見をまとめて発表するKJ法は、全員が話し合いに参加できてよかった。**

- 研究授業の題材や場の設定が工夫されていたため、想定しないような生徒の反応例が見られ、その対応の仕方について、多種多様な意見が出て勉強になった。
- 客観的に授業を参観したからこそ挙げられた意見があった。ぜひ、普段の授業でつまづいている生徒に対して実践してみたい。

#### 【富山地区】

(研究授業について 1 学年「資料の分析と活用」 2 学年「1 次関数」 3 学年「相似な図形」)

(1 学年)

- 単元を通して本時の授業で扱ったデータを活用しており、先を見通した指導計画だった。
- 静かにじっくりと考える時間の確保、それをノートやグループで表現する場があったので、根拠を明らかにして説明している生徒の姿がよかった。
- 生徒の意見が分かりやすく黒板に表され、全体の意見の共有にとっても役立ったと思う。

(2 学年)

- 日頃の学習が身に付いていると感じた。4 人グループの数学リーダーが中心となり、分からないことも生徒の意見から理解が深まっていたのでよかった。

**○課題がよかった。5 0 分間主体的に生徒達が取り組み続けられたのは、課題が実態に沿っている、課題までの導入が自然と興味を引かせる工夫があるなど、課題のよさが大きいと思う。また、生徒の言葉から次時への課題へつながっていた。**

(3 学年)

- 確かめ、振り返りまでされていたことがよかった。また、ポイントのまとめボード、音読させること、板書に工夫があった。
- ペア学習が上手で、話し合いに慣れていた。ペアでこまめに話し合わせたり、一人でじっくり考えさせたりと、メリハリのある授業であった。
- 授業の振り返りをする中で、理解を深めたり、次時への見通しをもっていた。

#### 【高岡地区】

(研究授業について 1 学年「1 次方程式」 2 学年「1 次関数」)

- 1 つの会場校で3 部会が開催されたが、会場校の細かい配慮により、円滑に行われた。

**○ベテラン教員と若手教員の2 つの授業が公開され、参観する教員にとってもいろいろな視点から考えられるよい機会となった。**

- 提案型の授業を参観でき、どのような授業展開にしたらよいか、教師が客観的に考える機会をもつことができた。
- 節度あるなかで、和気あいあいと話し合える雰囲気があり、数学が得意でない生徒も生き生きと学習に取り組んでいた。

(1 学年)

- 方程式の問題づくりという難しい学習課題であったが、前時までの指導がしっかりとされており、生徒は意欲的に活動していた。また、生徒のいろいろな見方や考え方、つまづきを知ることができた。

(2 学年)

- 規則性の問題を1 次関数の表を利用して解けるという視点を生徒に見いださせたよい授業であった。

(研究発表について)

- 資料の活用領域で、生徒が実験で得たデータをグループで処理、分析する内容でとてもためになった。

(研究協議について)

- 授業者の自評の後、席が近い参加者で小グループを作り、5 分程度話し合う時間を設けたことにより、意見交換が活発に行われた。

#### 【砺波地区】

(研究授業について 1 学年「文字と式」)

- 思考の過程や根拠等を視覚的に表し、論理的に説明する方法を生徒が身に付けることができるように手立てが工夫されていた。

□視覚的に表す方法

- ・どのように考えたのかが分かるように、マッチ棒のまとまりを○で囲む。
- ・○で囲んだ部分の本数を書き込む。

- ・考え方が分かるように式を書く。
- 論理的に説明する方法
  - ・図に数や文字を書き入れたり、○で囲んだりしながら説明する。
  - ・書き込んだ数や式と○で囲んだ部分がどのように対応しているのかが分かるように、数や式と図を線でつなぎながら説明する。
  - ・自分が使っている規則性を説明する。
- 今回の授業は、10月の大会では取り扱われてこなかった単元での授業実践であったため、新鮮であった。
- 表現力を高めるための手立てとして、問題の選定、ワークシートや色ペン等の準備、説明の仕方の提示、グループの組み方など、様々な工夫があった。
- 前時までとのつながりを意識した課題を提示することで、既習内容を基に解決の見通しをもって問題に取り組むことができていた。
- 解決過程が分かるノートの取り方や他に説明するときのポイントを丁寧に指導することにより、生徒は自分の着想や解決に至った過程を筋道を立てて説明し合うことができ、表現力の育成に効果的であった。
- (授業力向上アドバイザーによる講義)
- アドバイザーによる授業力向上のための講義では、新学習指導要領において求められている資質・能力について、具体的に説明を受けることができた。また、研究授業について、より専門的な立場から分析、解説していただき、知見を広めることができた。

## II

### 【新川地区】

(研究授業に関して)

- 生徒の実態を把握し、課題の難易度を調整することで、活動に意欲的に参加できるようにしなければならない。実際、せっかく用意したホワイトボードに考えをまとめることができたのは、1班だけだった。
- 方程式の利用の2時間目だっただけに、前時の復習などを行い、方程式の利用の手順やポイントを先に押さえるべきだった。
- グループでの話し合いで、全体的に考えが出ない場合は、一度全体に戻して、「今、どこまで考えることができたか」を確認する場面があってもよかった。
- 生徒の関心を高めるような投げかけが不足していたように感じる。例えば、貯金箱の重さから総額を予想させたり、終末に貯金箱を開けて総額を確かめたりするなどがあれば更によかったと思う。
- ワークシートやホワイトボードは、自分(班)の意見を伝えたり、他の考え方を聴いて取り入れたりする際には、有効だが、今回の学習課題は多様な考え方があるというわけではないため、ワークシートやホワイトボードは必ずしも必要だったか疑問が残った。
- 参観者のマナーとして、生徒の思考の妨げになる行為(大きな声でのおしゃべり)などは謹んでいただきたい。生徒も緊張して真剣に授業を受けていることを改めて認識していただきたい。

(研究協議について)

- 協議会では班ごと(郡市ごと)に別れたが、各場所には必要数分の椅子を配置しておくべきだった。また、マイクは2本必要である。
- 郡市ごとに班になったので話し合いは抵抗なくできたが、新川地区で集まる貴重な機会なので、他の郡市の方とも交流できるようにするとよい。
- 多様な意見を出すためにKJ法を用いたが、各郡市ごとの意見があまり変わらず内容がほぼ同じであったため、思ったほどの効果はなかった。
- 研究協議の際に、授業者への質問時間を取り入れてほしい。

### 【富山地区】

- 各学年部会での指導案検討の方法について、若手の授業者が、混乱を招かないような工夫が必要である。
- 授業後の協議会では、部会によって活発な意見交換が行われなかった場面もあり、ワークショップ型にするなど、工夫が必要である。

### 【高岡地区】

(研究授業について)

(1年生)

- 1次方程式の授業では、問題作成の立場に立たせることで、生徒たちは、必要な情報と不必要な情報の取捨選択について考え、等量関係を作りだそうとしていた。発表のさせ方や、教員の言葉がけ等、工夫の余地がある。

(2年生)

- 1次関数の授業では、これまでこの単元では扱われなかった教材であるが、いろいろな見方があり、参考になった。また、「1次関数と見なす」ことを教師の言葉でも、触れておくとよかった。

(研究協議について)

- 協議については、活発な意見が出るような工夫が必要である。小集団で話す時間を作るとよいと思う。
- 2つの公開授業が行われるため、参観していない授業や協議会の内容を共有する場があってもよいと思う。
- 授業で使用するワークシート等を授業会場等に置き、会員が取れるようにしておけばよかった。
- 前時までの流れや本時のねらいを聞く時間が無かった。オリエンテーションがあるとよかった。
- 実物投影機を利用して発表する場面があったが、字が小さかったり、反射して見にくかったりした。事前に確認するなどしておくべきであった。

### 【砺波地区】

(研究授業について)

- 説明の際に、「○○がn個あるので～」ではなく、「○○が横に並べた正方形の数分あるので、～」などのよ

うに、nという文字が表している具体の場面や事象と関連づけて説明できると生徒は文字を用いることの必要性や意味を実感できると感じた。

(部会協議について)

- アドバイザー講義があり、協議時間が短い(40分)ため、短時間でも活発な話し合いを行う工夫を考えていきたい。

### III

#### 【富山地区】

△富山市は、会場校が先々まで決まっているが、学校の規模の変化により、今年度見直しがあった。今後も、状況によって見直す必要が出てくると思われる。

### IV

#### 【新川地区】

- 駐車場に来られた来賓の方と一般会員の方の区別ができないので、駐車場係に来賓名簿を当日渡してほしい。
- 対話的な学びをねらいとした授業展開であったが、生徒同士の対話(班活動)を通して生徒に気づかせたいことを班活動に入る前の指導のときに授業者が伝えてしまっておられもったいないと思った。「教えること」と「気づかせること」をはっきりさせてから対話的な学習をするとその効果が上がると思われる。
- 多くの参観者がいるため仕方がないが、広い空間での授業は適していないと感じた。(教師の指示が通りにくい、生徒の注意も他にそれやすい)授業を2会場(2つの学年で実施する)としてはどうか。
- 研究発表が毎年、担当地区に丸投げになっている。発表者への助言や意見が活発に出ないと、せっかくの研究発表が生かせない。
- 実践は単年だけの実践よりも2カ年計画で行った方がより深まると思う。1年目に実践したことが、2年目に改善・改良を加えることでよりよい内容に仕上げるができるのではないか。
- 北四数の発表資料はアドバイザー講義が行われるときも、継続して配布するべきだと思う。(来年度は魚津市)

#### 【富山地区】

△数学では、今後も3つの授業公開が望ましい。

△アドバイザーの講義で、授業にすぐ生かせる話も今後さらに伺いたい。

#### 【高岡地区】

△1つの会場校で複数の部会があるのであれば、他の部会との連絡調整が必要である。

○会場責任者から細かいタイムスケジュールが出されたので、分担した役割を円滑に行うことができた。

#### 【砺波地区】

●欠席届の集約の仕方が共通理解されていない。

△例年のことであるが、アドバイザー講義の年は、研究発表が紙上発表となり、研究発表について協議する時間を確保することができない。発表資料を事前に配付し、質疑応答の時間を少しでも取れればよかった。

### V

#### 【新川地区】

△提案授業で扱う単元に、あまり変化が見られないので、ほかの単元を取り扱うことも積極的に考えなければならぬのではないかと。

△新学習指導要領で変更や修正があった単元等も積極的に扱うことで、より有意義な研究になると考える。

#### 【富山地区】

○事前の指導案検討会で付箋を用いた部会協議を行い、全員が参加できるように工夫した。よい点や改善点を出し合うことで、多方面の意見があり、授業者にとっては有意義な協議となった。

○どの授業も、地区大会の授業提案としてふさわしいものとなっていた。今回の指導案作成から授業提案までの取組や、部会としての関わりを振り返り、次年度以降に活かせるとよい。

## <理科部会>

### I

- ICT機器の活用により、今行っている実験結果のデータをその場で生徒がパソコンに打ち込み、グラフを作成することで、視覚的にとらえることができ、そこから関係性を容易に見つけだすことができていた。紙に書き込むグラフ化に比べてもかなり容易で関係性を考察するのに効果的であった。(新川)
- 仕事の単元に入る前の運動エネルギーと位置エネルギーの学習であったが、教科書に出ているペットボトルキャップを用いた実験のように関係性を考えるには数値があいまいなものより分かりやすかった。(新川)
- 今回の研究授業では、前時までの学びを生かして、生徒が主体となって活動が進められていて、よかった。(新川)
- 実験結果をより正確に分析するために繰り返しデータを取り、エクセルを用いてすぐにデータの分析ができるように工夫されており、2つのグラフを比較しながら考察を進める手立てがとられていた。(新川)
- 今回の研究授業について、情報通信機器の活用について、研究することができた。生徒が、互いに話し合い、協力しながら授業を進める素地ができており、とてもよかった。(新川)
- 2つの研究授業とも進度調節してもらい、2年生では消化酵素の働き、3年生では中和についての授業を提案していただいた。どちらも発展的な内容であったが、例年同じ時期に行われる研究大会ではあまり見るのできない領域を参観できたことがよかった。(富山)
- 2年生の授業では、消化酵素のよく働く温度を考え、説明することがねらいであった。トロ箱を使って設定温度を保ったり、酵素のはたらきかたを判断するために煮沸後のベネジクト液の色見本を提示したり、班ごとの結果を書画カメラで全員が確認できるようにしたりと、様々な工夫が凝らされていた。(富山)
- 3年生の授業では、濃度の異なる酸・アルカリを混ぜ合わせての中和をモデルで考えさせる内容であった。「～について〇〇を使って説明してください。」という課題の出し方が論理的な説明を促し、ゴールが見えるので考えやすくてよかった。(富山)
- 課題が明確であり、生徒はその課題を解決するための方策を考えやすかった。また、変化の割合をグラフに色を付けて提示したことは、とても分かりやすかった。何を変化させればいいのか一目で分かるので、効果的であった。(高岡)
- 生徒が自ら興味・関心をもち、「調べてみたい」と思った課題を調べるための実験を計画し、実験を行ったことで、生徒は意欲的に学習活動に取り組むことができていた。実験内容を計画することは、生徒が主体的に実験、考察を行う上で非常に効果的であると感じた。発表内容も既習事項が生かされた内容であり、生徒たちはよく考察ができていたと感じた。(高岡)
- 発表内容が既習事項が生かされた内容であり、生徒たちはよく考察ができていたと感じた。記録テープの結果を基にデータを表やグラフで表したり、6打点ごとに切った記録テープの結果を模造紙で拡大したものを提示したりすることは、実験結果を整理し、科学的に考察したり表現したりする上で効果的であった。(高岡)
- 生徒が自ら仮説を設定し、実験方法を考えたことで、課題解決に主体的に取り組む様子がみられた。また、見通しをもって実験を行ったことで、生徒は自分の言葉で経験等を生かし結果について説明したり、質疑応答をしたりすることができていた。(高岡)
- 継続して観測してきた太陽の1日の動きを示したの透明半球のモデルを用いて、季節による太陽の通り道の変化を様々な方法で検証した。観測を繰り返し行っていることで細かな変化に気付くことができ、課題を追究することへの見通しをもつことができた。また、同じ内容でもたくさんの実験装置があり、生徒が全員集まって実験の演示を行っており、生徒同士で理解し合う姿が見られた。(砺波)
- 既習の実験を複数示し、検証方法を選ばせることで課題を解決するまでのゴールをイメージしながら実験に臨むことができていた。また、実験結果を全体で共有するときに集まって代表生徒に演示させることで、生徒の疑問やつまづきに対応しながら学び合うことができた。(砺波)
- 研究授業では、季節を変えて透明半球に記録した太陽の1日の動きをもとに、なぜ違いが生じるのかに注目して課題を設定した。自分たちで継続して観察した教材を導入にもってきたことで課題への意欲が高まった。(砺波)
- タブレットや電子黒板等、ICT機器を活用することにより、目に見える変化を学級全体で共有することができた。(砺波)
- 課題解決をするために、既習した実験方法から自分たちで選んで検証する活動を採り入れた。班ごとに「南中高度」「昼の長さ」「太陽の軌跡」の観点から1つ選んで実験を行ったが、実験方法を太陽のモデルや地球儀、ミニ透明半球、分度器等の細かい実験の準備があり、今まで得た知識を活用して活動する姿が見られた。既習事項の振り返りを行うことで、根拠をもとに思考する活動ができると感じた。(砺波)
- 季節が生じる理由の解明のために、生徒自身による継続的な観察・実験をもとにした課題解決を図ったことが生徒の主体的な活動につながった。生徒の発表の際には、発表を聞くだけでなく友達の発表について自分の考えを発表するような双方向に発信する習慣付けをすることで学習意欲が高まった。(砺波)



## II

- 予想の段階で、学級での共有やグループ内での考察の時間が不足していた。(新川)
- 生徒は上手に実験を行っていたが、1度の衝突にするための操作の苦労が大きかったので、その工夫があればよかった。(新川)
- 実験時間の多い楽しい授業であったが、考察にかける時間が取れなかった。木片との衝突を1回のみとするため、跳ね返ってくる小球を止めるのにかかる手間を軽減することや実験内容のどこを省略するかなど、実験時間の短縮が必要であった。(新川)
- グループや全体での生徒同士の関わり合いや話し合い活動を充実させるための時間の確保が必要であった。(新川)
- 生徒同士の話し合い活動が充実できるような教師側に視点の与え方(教師の関わり、声かけ、切り返し等)について研修を進めることが大切である(新川)
- △ 各実験の班編制は、各班3～4人で男女が交差する形で組まれているなど工夫されていたが、班内の仕事分担がうまく機能していない班も一部見られた。事前指導や机間指導でもう少し配慮していけばよかった。(新川)
- △ 各々の条件での実験のデータ量が多かった。回数を減らして様々な条件でやってみてもよかったのではないか。(新川)
- △ どのグループも同じようなグラフが得られていた。考察を進める上では、ICT機器が線を引いてくれるソフトであったが、測定点のみの提示の方がその分析をしながら議論できたのではないか。(新川)

**△ 研究授業では、どうしても、実験中心に授業を組んでしまい。思考を深める時間や話し合いを行う時間が不足してしまう。前時に実験を済ませ、思い切って、思考を深める話し合いを中心におく設定にチャレンジすることも、必要かもしれない。(新川)**

- 2年生の授業では、ベネジクト反応の色見本を提示して各班の結果をまとめやすくした点は評価されたのだが、40℃のデータが前時のものであったこと、ベネジクト液の煮沸の仕方や唾液の濃度・量等、もう少し細かな条件を統一する必要があると思われる。(富山)
- 授業者が「顔を見合わせての授業」、「学び合いの取組」を念頭に普段通りの授業を行いたいと教室での授業実施を貫かれた。学び合いについては、教師－生徒、生徒相互の意思疎通が十分に図られていた、普段の地道なことの積み上げがしっかりと感じられたと評価されていたのだが、逆に教室で薬品を使って各班で授業を行うことは安全上気になったところである。また40名強の人数が参観するには場所的に適切ではなかった。(富山)
- 発表がメインになってしまい、話し合いや質疑を通してお互いに考えを深めるための活動時間を確保することができなかった。結果について考察する場面においては、日頃から結果の説明だけでなく、根拠と理由を明確にさせて解釈について説明させる指導が必要である。(高岡)
- 生徒がそれぞれ行った実験の結果を基に話し合い活動を行い、それぞれの考えを深めるためには、自分が行った実験だけでなく、自分以外の周りの班が行った実験に対する予想や仮説をきちんともたせることが大切である。(高岡)
- 科学的根拠をもって実験結果を解釈するためには、条件制御の理由等を理解するとともに、客観性や再現性が保障されるように、実験方法を十分に吟味する必要がある。(高岡)

**△ 全体の前での発表ではなく、小グループでの発表や話し合い活動を取り入れることが有効であったと考えられる。(高岡)**

- △ 実験結果等について説明し質疑応答を行う活動において、発表内容を吟味したり、質疑応答の焦点化を図ったりするために、前時に想定問答を考えさせるなどの工夫が必要であったように思う。(高岡)
- △ さまざまな実験方法がある中で、最終的な結論をどのようにまとめるべきか考える必要がある。斜面方向についての力を考えさせるのであれば、力の矢印について考えさせる場面が必要であったと思う。(高岡)
- △ 教材提示装置と発表用の用紙で発表したのでも、黒板に残す工夫をしたい。そのまま黒板に貼っておくか、先生がポイントを板書するか、発表後に各班を比べることができる工夫があったらよかった。(高岡)
- △ 各班の考えは事前にわかるので、立ち止まるポイントを考えておく必要があった。全部の班に発表させるのではなく、課題を解決するのにポイントとなる班を指名し、考えさせたいとここで立ち止まってじっくり考えさせれば考えが深まったと思う。(高岡)
- 課題を把握してから、生徒に仮説や予想を考える時間を十分にとることが大切である。(砺波)
- 生徒に考察させる際には、共通の知識の土台(日の出や日の入りの場所、地軸の傾き等)が必要である。(砺波)
- 生徒が自分たちで考えて実験を行う場合、実験の注意点を示しておくことが必要である。理科が得意な生徒だけでなく、苦手な生徒も活動できるような手立てを考えておくことが大切である。(砺波)

### III

- 運営責任者の事前打合わせは、もっと綿密に行うべきであった。(新川)
- 当日の動きの確認を綿密に行う。(砺波)
- △事前の指導案検討が、運営委員会で検討できなかった。いろいろな意見をもとに授業ができるように、各郡市部長が集まる際に指導案検討をしっかりとできるとよかった。(新川)
- 夏休み中と9月の2回、指導案の検討と部会協議のもち方について事前研修を行い、有意義な意見交換ができ、よかった。(砺波)
- 会場校が事前に製本をしていただいたおかげで、大会に向けての準備や配布等がスムーズに終わることができた。(新川)

### IV

- 日程として時間にもゆとりがあり、駐車場も広がったので誘導も安全に行うことができた。(新川)
- △授業前にオリエンテーションが短時間でよいので設定されると、授業を見る視点や部会協議の視点を共通理解できるのではないかと。(新川)
- 2人の発表者が2か所に分かれて研究発表を行った。また、その後、部会協議①と同様の班で、各校の研究主題に関わる取組を話し合い、全体で共有することができた。活発な意見や参考になる意見がたくさん出て、今後の指導の参考になった。(砺波)
- 部員の要望を受けて、東部教育事務所の西尾光生指導主事に新学習指導要領と来年度からの移行措置について改めて説明していただいた。漠然としていた内容を、「いつ、どの学年の、何をけずり、何を加えるか」等について、整理して示していただけてよかった。(富山)
- 部会協議では、部員を6つのグループに分けて小グループでの話し合いをもった。若手とベテランの先生が同じグループに入るように配慮して、授業者から、話し合いの視点を示し話し合いをしやすいように行った。研究授業の優れていた点や改善点・工夫点を話し合った。より多くの先生方の意見を吸い上げることができ、最後には全体で共有できた。また、若手の部員からは、意見を話しやすかったという意見が得られたし、ベテランの部員でも授業の改善について新たな発見が得られた。(砺波)
- 時間設定と話し合う必要感のあるテーマの精選が必要である。(砺波)
- △部会協議をグループで行った場合、多くの意見は出るが全体での深まりがない。授業について話し合う部会協議1を全体での話し合いにし、意見を深め合う。各学校の取組を紹介する部会協議2をグループにするのがよいかと思う。(砺波)
- 授業力向上のための講義では、全国学力、学習調査の問題をもとに指導のポイントを示してもらい、今後の指導に生かせる内容であった。(新川)
- △講演時間の設定等の打合わせ不足があり、質疑応答の時間がほとんど取れなかった。質疑応答の時間を考慮した講演時間設定や依頼をしてほしい。(新川)

### V

- 今年度のように市中教研研究大会と県中教研研究大会の日程が近い場合は、市の授業研究を生かして県の授業を行うことが困難である。(高岡)
- △今後、新しい部長や運営責任者になる先生も増えてくるので、誰が責任者になっても運営できるように、次年度以降に向けて砺波地区3市が共通理解を図っていく必要がある。(砺波)

## <音楽部会>

### I

- 工夫を考える部分や考えるポイントが絞られていたので考えやすい。(東部)
- 書き込み用の楽譜やホワイトボード等があり、思ったことや考えたことを可視化していることがよかった。
- 旋律の特徴と強弱表現と関連付けながら、表現を考えていくといった曲作りは参考になった。(東部)
- パート別グループだったので、パートごとの工夫を話しやすく、実際に歌って確認できていた。(東部)
- 旋律の進行や楽譜の記号等を1年生から意識するなど、積み重ねが大切だと感じた。(東部)
- 生徒がK J法に慣れていないと、音楽科でも取り入れることができると分かった。(西部)
- 付箋紙に自分の感想が残るため、指導と評価の一体化に繋がると感じた。(西部)
- 計画的な指導が日常から行われ、ねらいや手立てを明確にした研究授業であった。(西部)
- あまり取り上げられない雅楽の鑑賞の授業は、とても参考になった。(西部)
- 研究テーマに沿った視点の研究授業だった。(西部)
- もう一度聴いてみたい生徒に対する準備等が効果的だった。(西部)
- 比較するときは、何を聴くのかを明確にしなくてはならないことが分かった。(西部)
- 聴き比べは特徴を理解するのに有効であった。(西部)
- グループ協議の役割分担が決まっていたのでスムーズに進行していた。(西部)

### II

- グループ活動を行うにはグループを育てる必要がある。普段の学習の中で活動の仕方を指導し成果を上げる経験を積まないと、グループになっても活動が進まない。(東部)
- 生徒の思いに対して教師からの技術的なアドバイスを入れていくことが技能の習得につながる。(東部)
- 生徒が考えることと教師が指導することを明確にし、1時間の授業内で生徒の技能が高まらなければならない。(東部)
- △ワークシートの楽譜を貼るようなボードにして、書き込んだことを練習する時間を設けるとワークシートの効果が上がると感じた。(東部)
- 音程を正しく歌えない子がいた。工夫を考えて表現に生かすには、音程はしっかりさせる必要あり。(東部)
- 生徒のやりたいことや思いを達成できる技術の指導という支援が必要だと感じた。(東部)
- △音楽の授業なので、話し合いも「音」を使って行うとよいと感じた。(東部)
- 録音や録画等を用いて、「できた」と実感させる工夫が必要だと感じた。(東部)
- 参観者が多くても、できるだけ音楽環境の整った音楽室で授業をしたい。(西部)
- △グループで話し合いをした内容を共有する時間があればよい。(西部)
- △音を味わって聴く時間の確保が必要である。(西部)
- △せっかくK J法を提案したのだから、部会協議にも応用すればよかったのではないかと。(西部)

### III

- △事前研修会を有意義にするために、準備は早めにして連絡を取り合っておく。(東部)
- 出席者等を確認し、どのような準備が必要かを早めに相談しておくようにしたい。(西部)

### IV

- 来賓の駐車台数が把握できず、誘導がスムーズに行えなかった。(東部)
- 先生と生徒の温かい人間関係が感じられる授業だった。(東部)
- 実態を考慮した授業の準備がなされ、課題に真剣に取り組む生徒の姿が素晴らしかった。(東部)
- △表現の工夫に焦点を当てがちだが、表現の技能を高めるための研究授業があるとよい。
- 日頃の取組について相談できる時間があつたので、よい機会になった。(東部)
- △新学習指導要領についてや指導計画や指導案作成、評価の仕方等について具体的に学ぶ機会としてもよいと思う。(東部)
- △深まりのある有意義な協議会の在り方や進め方の工夫が必要である。(東部)
- グループ構成を考え、個々の実践を協議できたのは、とても有意義だった。(西部)
- これまで曖昧だった「知覚」「感受」について、大変分かりやすく具体的に説明していただいたので理解できた。(東部)
- 具体例を挙げて説明して下さったので分かりやすかった。(東部)
- △2年に一度でもよいので、東部地区と西部地区の両方が同じ話を聞きたい。
- ICTの活用に関する研修が必要である。

### V

- △地区の人数が少なく、他地域と合同研究になるよう検討してほしい。(東部・西部)
- △研究組織の区割りを考える時になってきたのではないかと。(東部・西部)
- △統合による学校減を控え、ローテーションの見直しが必要だと思う。(東部)
- △音楽科は各学校に一人しかいないことが多いので、いろいろな資料のデータベース化を進めてほしい。
- 学習発表会や合唱コンクール等の時期と重なり、授業者の負担が多いのではないかと。
- 年に一度の研究大会なので、部会協議の時間を十分に確保してほしい。

## <美術部会>

### I

#### 東部

- 新学習指導要領には、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを重視するとある。授業者は新しい教材に積極的に挑戦し、提案することができた。
- 学習指導要領のポイント「生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力の育成」についての解説を通して、教師のねらいをもつことと手立てをしっかりと講じることの大切さを実感した。**
- 授業者から「アイデアを全部変える必要はない。」という言葉掛けがあり、生徒は安心し、納得して制作に取り組んでいた。この言葉掛けは大切であった。

#### 西部

- 「心地よい形」という、自己の内面に迫る題材における指導の工夫について学ぶことができた。
- 誰もが取り組むことが可能な題材であり、指導の基礎として学ぶべきことが多い実践であった。
- ICT機器を使いこなすことによって時間の短縮を図り、作業時間の確保ができたり、前時のアイデアを形で残したりすることができることが分かる実践であった。
- タブレットに生徒一人一人の制作の過程が記録されていくことは、生徒が、自分の考えや作品の変容を確認したり、教師が評価に生かしたりする上で有効であった。**
- 生徒作品をその場で画像に保存し、振り返りで利用したことは、生徒の発想の変容を捉え、よりよい作品制作に生かす上で効果的であった。
- 回転台にのせて彫刻を鑑賞する手立てが効果的であった。題材のテーマを明確にして取り組ませることを大切にする。
- △「視覚的な心地よさ」と「触覚的な心地よさ」、「まとまり」か「変化」、「丸み」と「突起」などについてどちらを追求させるのかを明確にした方がよかった。
- △鑑賞作品の吟味を行ったほうがよい。この題材のねらいに即した鑑賞作品を厳選することで方向性が決めやすい。

### II

#### 東部

- 主題を生み出すに当たり、主観性を大切にするのか、客観性を大切にするのか指導する側が迷わないようにしなければならない。
- 協議主題内容の精選や時間の配分を明確にすべき。
- 話し合いの中での付箋の使い方。付箋は残るので後日見返して、じっくりと作品を見直すので有効だが、話し合いの中でのコミュニケーション場面では、付箋はなくても話し合いは成り立つ。
- 相互鑑賞での生徒間のアドバイスについて、イメージが固まっている場合には言いにくい、受け入れにくいことがあるので、どの時点でどのように行うかなど難しいと感じた。
- △題材名が「MY〇〇ノート」であったので、自分の考える教科のイメージと、教科らしさが伝わるデザインのと両立を目指して作品構想を練るのは難しかったように思う。ねらいをどちらかに絞って考えたほうがよい。

#### 西部

- △研究協議の際、質疑に終始してしまい、協議の深まりが感じられなかった。発表内容に対する質問ではなく、研究主題に絡めた協議ができるように進めることができればよい。
- 共同制作では、個人の評価の仕方を工夫していくことが必要だと感じた。

### IV

- 授業協議にもう少し時間があればよかった。他グループの意見も学びたかった。意見は付箋に書いて、授業者に渡すことができた。**

△自由発言の形式で行っている。活発な討議が展開されているが、発言者に偏りが見られる。東部のように、付箋を活用したグループ討議など、形式を模索していく余地がある。

△アドバイザーの先生のご都合を聞き、両地区一度に聞きたい。（多数）（宿泊費が高むのであれば、前泊は無しで一日目の滞在費のみで大丈夫だと、アドバイザーより直接伺っている。）

△東部で行われたアドバイザー講義の概要等を西部地区の部員にも共有できるようにしてほしい。

### V

#### 東部

- 来年度は全国中文祭が夏休みに開催される。仕方ないこともあるが、役員として関わる人や出張時期は集中しない方が充実するのではないかと。

#### 西部

- 小矢部市は、現在、美術科教諭は3名である。砺波地区全体でみても人数は少ない。そのため研究大会の発表順など何度も回ってくる。地域で輪番にするのではなく、人にあてるような考え方でないと、富山市、高岡市などの人の多い地区の先生は研修の機会を失い、人の少ない地区は何度もすることになる。人の少ないところは発表だけでなく、いろいろな面で負担が大きくなっている。早急に改善策を講じて欲しい。

## <保健体育部会>

### I

- チーム編成を、男女共習の6～7人グループとし、サッカー経験者や部員を、**技能を教えるチームリーダー**として各チームに配置し、生徒同士の関わりを多くすることで女子の過半数に**興味がない実態の改善**ができ、本時の課題に迫りやすくなった。
- コートの大さを通常よりも狭くしたことで、一人一人のボール操作の頻度やサポートへの頻度が高くなるようにし、生徒同士の関わりを多くするようにすることができた。
- 3年間を見通した指導計画**を立て、1年生としては、基本的なボール操作と空間に走り込む動きで攻防を行うことに絞って指導ができた。
- 黒板を使い、色磁石を人に見立てて動かしながら説明し合うことで、本時のねらいがより生徒に伝わりやすかった。また、生徒による実演も、生徒の実態に近いモデルとして意欲付けにつながっていた。
- 手本となるタブレット映像を見ることで、守備者の間を通すスルーパスについて、サッカー部員や経験者の説明も加わってより専門的な戦術をイメージできていた。
- プロジェクターを利用し、本時の学習の予定を映し出したことで生徒が流れをつかみやすくなっていた。
- 体ほぐし運動では、器械運動に必要な柔軟性や筋力をつけるために効果的**であった。運動量の確保にもなっていた。
- タブレットに見本となる映像(先生)**があり、生徒たちは正しい技を意識することができたと思われる。
- 新学習指導要領への移行措置について詳しく学ぶことができた。
- 器械運動の**実技講習(教師用)**があり、授業ですぐに実践できるポイントを学ぶことができた。
- 生徒の積極性が高く、日頃からの授業づくりのよさを感じられた。
- 作戦ボードが準備されていたことで、苦手な生徒も動き方などを理解しながら学習を進めることができた。
- 習得、活用、実践のプロセスがしっかりしており、生徒に力が付いていた。
- 生徒のゴールイメージを授業者がしっかりもっており、生徒たちの実態に合わせ、適切に関わっていた。
- グループごとに協議会を行ったことで、全員が参加しやすく活発な意見交換がなされた。
- 事前に経験年数や各市のバランスを考慮して6つのグループに分け、部会協議会ではにグループ協議会を中心に行った。今回の研究授業での主題解明の手立てについて活発な意見が出ただけでなく、**若手の教師からベテランの教師**に対して、日頃授業を進めていく中での**質問**や、各市の取組についての話題が出て充実した協議会になった。
- 技に応じた各グループの場の設定や、技についてポイントがまとめられている資料や学習ノートなど、学習の場の工夫や準備はされていた。
- タブレットによる**撮影場所の視点を定めていた**ことはよかった。
- タブレットに**蓄積されているデータ**を利用することで、前回の自分と比較できるので評価しやすい。
- 技の見本がタブレット端末に保存**してあり、生徒は確認したい時に、いつでも使用していた。技の完成イメージをもちやすく、また自分ができていない部分について「どこが違うのか」の理解を助けるのに効果的であった。(教師が見本となっていて素晴らしかった。)
- 自分の活動したい場所を選び、そこにいる生徒でグループを作り、アドバイスし合いながら活動に取り組んでいた。流動的なグループ活動により、刺激が加わり、活動への意欲につながっていた。
- 中学校の教員が小学校へ体育を教えにいくこともあるそうで、小学校との連携ができているのは一貫した指導に効果的である。
- 指導案の指導の目標・全体計画・評価基準が一覧表になっていて、分かりやすくてよかった。
- ICT機器(タブレット)で**比較できるアプリ**は、生徒が**課題を見つけやすく有効**であった。また、見ながら助言していたので、ポイントを話し合うことができた。
- 技に応じた用具**が準備され、課題別練習がしやすかった。
- 各郡市の研究発表では、パワーポイントを活用することで、とても分かりやすく聞くことができた。生徒への指導でも視聴覚機器を活用する意義を実感できた。

### II

- ICTの使用の仕方について生徒たちを指導する(比べるポイントを絞る、**技を撮影した後どうするのか**など)必要があるのでは。
- グループが固定**されていないため、**教え合う姿があまり見られなかった**。技術レベルの違う少人数グループで学習すればよいのではないか。
- △体育実技や学習カードを利用し、大切なポイントを理解できるようにした方がよいと思われる。**映像だけでは、なかなかの理解できなかつた**ように見えた。
- 正しい知識を身に付ける**ことで、**アドバイスし合える**のではないか。授業ではどのように身に付けばよいのであろうか。
- △**課題の必要感**を持たせるための手立てを工夫する。

△運動量を増やすために「指示」、「活動」の内容を整理しておく。

●グラウンドでタブレットを使用する際に、日光で画面が反射していたので、使用法を考える必要がある。(ICT活用の全般)

△男女混合のグルーピングでは、習熟度が高い生徒に対して個別に課題設定をしておくとうい。

●授業を5分オーバーしてしまい、その後の予定が遅れてしまった。運営側が声をかける必要があった。

●参観する教員のマナーについて授業が始まる前に、諸注意をオリエンテーションで具体的に確認しておくべきであった。

●授業前から授業について意見される教員がおられ、協議会の話す場で意見を述べていただきたかった。

●参観している教員が、各グループの様子を近くで見ようとする事で、生徒の活動に支障をきたしてしまった。マットを配置する間隔も狭く、安全面について、その場で考慮して注意を促すべきであった。

●授業中に生徒にアドバイスをする教員がいた。授業者の授業を見守るべきである。

●協議会の時間配分を工夫する必要がある。

●グループごとに視点を絞って授業を参観したり、協議会を行ったりしたが、総合的に関わり合っている部分が多く、視点が限定されると厳しい部分もあった。

●グループ活動は班によって取組に差があった。生徒はタブレットを使用しているが、タブレットを見て意見を出し合うなどの活用はされていない。今後は、もっと生徒が主体的に判断し、タブレットを活用できるようになればよい。

●運動量が十分とは言えなかった。運動量とタブレットの活用は、単元を通してバランスをとれるように使用を工夫するべきである。

△生徒同士の関わり合いは、保健体育の授業だけでなく普段からの取組が必要である。

●学習の振り返りは、各自の学習課題に対して、何が分かり、何ができるようになったかを生徒自身に考えさせること。感想を書かせるのではない。各自の課題に目を向けさせ、解決できたかを生徒に考えさせることによって、さらに次時の課題につながっていく。

△生徒に話し合いのポイントを示す必要がある。→ 体育実技のイラスト図を用いたり、学習カードに示したりする。

●同じ技をやり続けていた生徒に対しては、教師の具体的な支援や声掛けが必要である。

●安全面の配慮を最大限に行わなければならない。→ マット1枚に活動する生徒は1人等の徹底

●「練習の仕方」について、生徒はあまり学習していなかったように見えた。どのように練習すれば技ができるようになっていくかを学ぶ場面が、指導過程の中にもっとあればよかった。

△発表会の到達点が一覧表に明記されているとよかった。

●1、2年生で基本の技ができていても、3年生になるとできなくなることもあるのが器械運動なので、単元の中で復習する時間は必要だと感じた。

△器械運動の単元では、準備運動に柔軟は絶対必要なので取り入れるとうい。

△技のポイントが書いてある拡大掲示物や学習カードを活用すると、生徒の思考の深まりにつながる。

### III

△指導案検討会には当該校の保健体育部員が参加した方がより研修が深まると思う。

●指導案検討の時間がなかなかとれず、最終稿はほとんど県副部長と授業校での確認となってしまった。

●今年は市の研究大会が例年よりも2週間ほど遅かったため、発表資料を準備する時間が十分に取れず県中学駅伝も考慮すると資料を製本する日もギリギリであった。

△部会責任者が毎年変わるので仕方がないと思うが、データやファイルの引継ぎはできないものか？経験のない者がわからずにやっているの、会場校に迷惑をかけてしまった。

△研究発表者が9月中旬から単元に入った授業となり、単元が終了していない状態で研究発表の資料を作成している状況であった。提出期限も当然単元が終わっていない状況で問題があると感じる。改善案として前年度の授業者の研究発表をするなどに変更してはどうか。

### IV

△研究授業を参考に、4人ずつのグループを編成し、研究主題解明に向けた方策と本時の視点から絞って検討する協議を15分取った。その際、研究授業でよかった点を青の付箋に、課題(改善・疑問)などは赤の付箋に記入してA3用紙に貼り付けて意見を述べ合った。その後、各グループで考えた手立てをそれぞれ発表する時間を1分ずつ設けた。限られた時間の中で意見交換を行うことができるため、効率のよい方法だと思われる。

○授業力向上のためのアドバイザー講義では、佐藤 豊先生をお迎えして講義をいただくことができ、「新学習指導要領への対応とその進め方」の趣旨を聞かせていただくことができ、大変有意義な研修の機会となった。

●アドバイザーが配置された場合、協議会1の時間が短くなってしまふ。時間配分を検討したい。

○担当地区の先生方の協力体制がすばらしかった。

△研究授業を参観する時は、マナーを守り、授業の妨げにならないように配慮する。

●**研究発表は、報告になっており**、今年度の研修内容を絞り、3市の取り組みを検討する方がよいと感じた。

●体育理論の研究授業はあまり取り組んでいない分野なので参考になったが、**文書のみ**の発表で**残念**であった。実際の様子が少しでもわかる写真や資料を提示して欲しかった。

△研究協議では、グループ討議をすることを事前に知らせてほしい。また、研究協議が自評と質疑応答と討議のみで終わったので、その後全体の話し合いがあればより一層深まると感じた。

●研修内容を絞り、全体で検討した方が、教員の授業力向上につながると感じる面がある。

V

●研究授業を参考に主題解明に迫る方法がよいのか、専門的な立場の方から講義を聴かせていただく方が研修が深まるのか。生徒減に伴い、保健体育の教員も減っている中で、いつも研究授業から学ぶという方法を改善できないか。

## <技術・家庭(技術)部会>

### I

#### [東部地区]

- 目標が明確
- 生徒の主体的な取組
- ペアやグループ学習での効果的な学び合い

#### [西部地区]

- 教材開発 マイクロビットの使用
- 生徒の意欲を引き出す題材
- 与えられた課題解決ではなく、自分で課題を設定し、解決していくことがすばらしい。
- 生徒の主体的な活動を引き出した。
- 題材は社会と関わるもので、社会との関連も考えさせやすい。
- スマホのカメラ機能を使うなど、I C T機器の有効利用が参考になった。
- 思考ツール「マンダラート」の活用により、考えを広げていた。
- 四輪車を走らせる坂道、鏡等多くの教具が準備されていた。
- 段階を踏んで制御の学習が進められており、不得手でも学習を進められる工夫がされていた。

### II

#### [東部地区]

- △年間指導計画で、じっくりと考えさせる場面をと教え込む場面を設定する。
- 直線、直角に切断する方法を確認しながら作業できるようにする。
- 工具の安全利用

### III

#### [西部地区]

- △郡市部長全員が集まらなくても決められる会合がある。

### IV

#### [西部地区]

- 射水市全部員での取組ということもあり、一体感を感じた。授業者、司会者との連携も抜群で、わかりやすい協議会であった。

### V

#### [両地区とも]

- アドバイザーの講話、資料が大変わかりやすく、今後の指導の在り方に向けて参考になった。
- △ゆっくり聞きたかった。事前打合せで、話をさせていただく内容をもう少し精選してもらってもよい。
- △「ものづくり題材集」の在り方  
教師の負担、有効活用の仕方、内容の書き方

#### [西部地区]

- 高岡地区では、次年度、高岡市、氷見市、射水市の3市合同での活動を予定している。  
今年度は、射水市夏期研修会、射水市中教研大会で3市合同で活動した。研究主題の共有や多くの部員による多様な意見交換により研究が活発になっていく。
- 県内各郡市の研究大会の日時がわかり、県内の先生方が他郡市の大会に気軽に参加できる体制があるとよい。



## <技術・家庭(家庭)部会>

### I

#### <東部地区>

- 「未来につなげるために」に到達するまでの積み重ねが素晴らしかった。
- 実際に五感を使って味わうことがとても有効だった。体験的・実践的な学習の大切さを感じた。
- 授業全体を通して、生徒の思考が整理されていた。ワークシートや教師の声かけが素晴らしかった。
- 体験・感動を積み上げた上で、生徒たちの思いを語らせ、十分に受け止められた授業であった。
- 細やかな準備が、生徒の学びに生かされていた。
- 「できるようにになりたいこと」という問いかけが、現在・未来・家庭・地域までに広がる言葉であった。
- 新しい指導内容を含んでおり、今後研究を進めていく上での目標となった。
- 日本人として誇るべき文化についての学習の在り方として、参考になった。
- 机間指導の際、生徒のワークシートに赤ペンを入れることで、自信をもって発表しやすい雰囲気になった。雰囲気のよい授業であった。
- 指導計画4時間の課題が、生徒の興味をひくものになっていた。
- だしの学習を通して調理実習を行うだけでなく、日本の食文化を未来につなぐ思いを生徒の話し合いに取り入れた授業であった。
- 夏休みの研修が、本時の授業に結びついていた。
- 導入に試食したことで、モチベーションが上がったり、実体験に基づいた考えが出てきたりしたので、説得力があると感じた。
- 終末に意図的氏名もあり、深まりが見られた。
- できるようにになりたい、理由を話し合うことで、技術を向上させたいことや日本の食文化をつなげていきたいという思いにつながった。
- 授業の中で生徒の考えを机間指導で把握し、話し合いの中に取り入れていた。  
(思考ツールについて)
- ワークシートを4回の授業で1枚使うことによって、前時の授業も見返し、今後の授業の見通しももてる素晴らしいアイデアでした。
- 「フィッシュボーン」は、生徒の考えを整理しやすく、学習の流れが掴みやすかった。自分も実践したいと思った。
- 「フィッシュボーン」の付箋は有効だった。
- 生徒の理解力の手助けになっていた。
- 個の考えが分かった。
- 単元の学びが分かりやすく、毎時間のつながりが明確であった。
- 五感カード、ワークシートにあったので、生徒に視点がうまく与えられていた。

#### <西部地区>

- 実際に遊具に触れることで、自分の幼少期を思い出すきっかけとなった。
- 班長の司会進行の仕方プリントがあったことで話し合いがスムーズにできていた。
- 実感を伴った理解のために、ビデオや遊び道具が準備されている授業だった。遊び道具を見たときに生徒たちが素直に喜び、目を輝かせている様子が印象に残った。**
- 幼児の生活を知るためのDVDの編集の仕方や音声を消す工夫が効果的だった。
- 実物のおもちゃを使って話し合いをすることで、対話的な学びが生まれていた。
- ホワイトボードを使った班の話し合い、発表の方法が参考になった。
- 氷見市全体で、授業研究の検討・改善が重ねられた素晴らしい授業だった。
- 幼児が遊びを通して身に付ける力を、生徒におもちゃを使わせることで考えさせるという授業であった。生活経験少なく、身近に幼児がいる生徒が少ないという実態の中でとても効果的であった。
- 生徒の実感を伴うために実物を提示することが、家庭科の持ち味であると改めて感じた。
- おもちゃという実物を使用したことは、課題について考えを深めるために有効であった。
- 小グループでの話し合いの際にホワイトボードを使用したことは、有効であった。
- 話し合い活動のスキルを学校全体で取り組んでいる点で参考になることが多かった。

- 実物として生徒におもちゃを使わせたことはよかったが、授業のどの場面で設定するかを熟考する必要があると感じた。
- 授業のまとめが今一つ弱かったように思われる。遊びで身に付ける力=生きる力であることをしっかりとまとめることができればよかった。
- 授業のねらいは「遊びを通して幼児が身に付ける力を考える」ことであるが、考える時間の取り方話し合わせ方に、まだ工夫が必要な点もあった。ビデオを見ていて、一人で考えるだけで答えを見つけれられており、遊び道具を使いながらの話し合いが、有効かどうか疑問に残る班もあった。
- △せっかく準備された遊び道具を有効活用するために、前時に遊び道具を使って、もっと自由にあそびせてから、本時の学習に入るとよい。
- △意図的指名をするには、生徒がそれまでの活動をふり返り、考える時間がたっぷり必要である。

## 協議会

### <東部地区>

- 悩みが出されアドバイスをもらえた。指導助言ともつながっていた。
- 興味のある分野に分かれて検討する試みはよかった。家庭科という教科の必要性を感じるテーマ選択

であった。

- 小グループでの話し合いが活かされ、効率よく進められた。
- 他の学校での実践が分かっている、よかった。
- 部会の運営がしっかりしていた。
- 部会協議2の持ち方は、いろいろな実践を聞き、新学習指導要領について学ぶことができた。
- 部会協議1・2も参加者全員が意見を言えるような工夫がなされていた。
- △事前に協議内容を知らせてもらったら、もっと深まったのではないだろうか。

<西部地区>

- 砺波地区による東海北陸大会（岐阜大会）の発表を聞かせていただけたことが、大変参考になった。
- 砺波地区の発表内容がとても参考になった。消費分野での体験を伴った理解をさせるためのよい実践例であった。**
- 消費生活分野の導入でモデルAさんを設定し、「賢い消費者になるためにはどのようなことを学ぶとよいか」という学習計画を生徒に考えさせたことは、生徒に必要感と興味・関心を持たせるよい工夫であると感じた。
- △東海北陸大会の発表の資料が欲しかった。
- △お互いに向き合う形で協議をする方が、活発な意見交換になる。
- △ネームプレートを置いたり、メモをとったりするために机は必要。

II

<東部地区>

- △新学習指導要領になってからの内容で、高齢者に関する内容がある。しかし、核家族が多いことや、祖父母が元気な世帯であると介護がイメージしづらい。少ない時数でどのように工夫できるか考えなければならぬ。
- △授業に活用できるデータベースがあれば、授業に取り入れやすい。
- △直接授業を参観するのではなく映像を送信する方法もあるのではないか。
- △どの学校でも実践できる内容にするには、どこを改善すればよいのか。

<西部地区>

**△新学習指導要領について3年間の見通しをもち計画を立てていく必要性を強く感じた。**

- △新学習指導要領実施にむけて研究を進めていかなければならないと感じた。
- △もう少し、指導主事からの講話に時間が必要である。

III

<東部地区>

- 富山市の組織での授業づくりが素晴らしい。市全体で授業力がアップされている。

<西部地区>

- いくつもの授業があり、西條中学校は大変だったと思います。ありがとうございました。
- △3部会会場となった西條中学校は大変だった。数学科との日程の細かい部分でずれがあった。もっと他教科との打合せをするべきだった。

IV

<東部地区>

- 富山市の先生方が協力してよく運営されていた。
- △美術科と重なったため、協議会場が普通教室だった。
- △協議会2の時間がもっと長く取れるとよかった。

<西部地区>

- 授業会場と競技会場が隣接していたので移動が少なくとてもよかった。
- 部員が協力的であった。
- △新学習指導要領実施に向けてアドバイザーに来ていただき講演を聞きたい。
- △研究授業校において、複数の強化が重なっている場合は、授業の始まりや協議会の時間を統一してもらうとありがたい。

V

<東部地区>

**△部会の人数が減り、一人一人の負担が大きくなっている。一校に一人、教員を配属して欲しい。**

<西部地区>

- 氷見市の部員は3人なので不安だったが、みなさんのご協力のおかげで大会を行うことができました。
- △地区の部員数が減り、研修が深まりのあるものになっているか不安がある。また、一人の負担が大きい。
- △部会協議2は情報交換の場としてよいが、負担を考えると毎回講演会でもよい。

## <英語部会>

### I

- ヒントカードやホワイトボード、苦手な生徒への個別の支援プリントなど、個々に配慮して全員が取り組める工夫がしてあった。(新川)
- 場面設定の工夫が大切であると感じた。また、興味のあることを聞いたり答えたりする点が新鮮だった。
- 生徒自身が質問を考えて、実際に英語で質問し答えてもらえるところが、リアルなコミュニケーションになっているように感じた。
- 他郡市の先生方と組んだグループ分けや、授業中にあらかじめ付箋に自分の意見を書くことで、部会協議が充実したものになった。授業者にフィードバックとして手元に残るので、有益だった。
- 授業会場が広く、全体的に見ることができ、客観的に見たり、自分ならどうするかを考えたりできた。
- 授業会場に英語科の掲示物があり、大変参考になった。英語科の雰囲気作りがしっかりできていて、生徒のやる気が出る。
- 教科書本文のアプローチ方法や内容理解にもバリエーションがあるということを知ることができた。
- 15秒チャレンジは、生徒が短時間で集中して、意欲的に取り組むよい方法だと思った。
- ICTを活用することで板書の時間が短縮でき、効果的だと感じた。
- 授業者の指導の積み重ねが多く見られ、温かい雰囲気の中で授業が行われていてよかった。(新川)
- 昨年度取り組んだ部会協議①の進め方(予め、授業を見る「視点」を授業者から出してもらい、その視点に係って気付いたことを付箋に記しておく、それらをもとに協議を進めるやり方)を今年度も継続実施した。(富山)
- 小グループでの話し合いを主とした。協議内容が散逸することなく、論点が絞られた協議になったと思う。
- 部会協議②(発表)は、発表者の実践に基づいたもので、生徒に付けたい力や指導の流れが明確であり、具体的に分かりやすい内容であった。部員が各校に持ち帰り、生徒の実態やこれまでの授業のあり方等を考慮しながら、是非取り入れたいと思える内容であった。(富山)
- 授業を参観する視点をはっきりとさせたことにより、協議会がスムーズに進行した。事前にマトリクスを書いてある用紙を配布することにより、グループの意見をまとめたり、話し合いをしたりする際に有効であった。(高岡)
- 身近な話題を学習課題として設定したこと、各自の予定表を基に即興的に電話での対話を行なったことが生徒の関心・意欲を高めることにつながっていた。また、電話に関する表現をスモールステップ方式で繰り返し音読練習を行なったりしたことや、練習するペアを何度も代えたりしたことは、本時のねらいを達成する上で効果的であった。
- 協議会は短時間だったものの、少人数でのグループ協議としたこと、協議する視点を2つに絞ったことで、各会員が共通の意識をもち、活発に意見交換を行なうことができた。2色の付箋を用いた協議の方法が(定着してきているので)効果的であったと考えられる。
- 即興的な言語活動に向けての指導の在り方について考えることができた。
- 小中連携について、各市での取組状況を聞くことができ、改めて連携の必要性を感じた。(高岡)
- 話すこと(やりとり)について、場面設定や発話内容、メモをもとに即興的に話すこと等から、どのような言語活動を行うことができるのか考えさせられた。また、言語活動の展開方法や、生徒が主体的にやりとりするための手立てや支援方法等、これからの方向性を示す授業であった。(砺波)
- マッピングをもとに対話する活動で、生徒たちは即興的に自分の考えや気持ちを伝え合っていた。英語を使って、クラスメイトとたくさん伝え合う活動を通して、生徒自身が成長を感じることができ、とても有効であった。また、多くの生徒が授業の終わりに達成感・充実感を味わうことができた。
- 部会協議では、小グループに分かれて授業の参考になる点や改善点を話し合った。小グループであったため、話し合いが活発に行われた。
- 授業者は準備しすぎないことを念頭に計画を立てた。帯学習の「デイリースキット」など1年次からの積み重ねがとても効果的で、その積み重ねこそが何よりも「準備」であった。また、帯学習のDaily Skitが、本時の英語でやりとりする場面で、大いに活かされていた。
- 本時は、生徒自身が自分の言いたいことについてしっかりと準備していたからこそ、「伝えたい」「聞きたい」という姿勢が見られた。
- 相手によって、言う内容を変えている生徒もおり、互いに新しい表現を使おうと努力していた。
- 最初と最後で同じ相手と話したことで、レベルアップした成果が分かり、生徒に達成感を感じさせることができていた。(砺波)

### II

- △協議会では研究授業について協議するが、指導案や授業づくりのために、どのような工夫や取組を行ってきたかも有効ではないかと感じた。
- △本来はもっと授業について各校で指導案を作ってみたり検討したりし、それを研究授業者に提案する方法もある。また、研究授業後、各校でのそれを生かした実践や研究こそ大切なのではないか。
- アドバイザーの講義があったため、グループ討議の時間が10分だったので、話し合いが深まらなかった。
- 討議のテーマを4技能の項目に分ける必要はなかったと思う。付箋に書く前に「4(5)観点の視点から書

いて」という指示があった方が協議しやすかったように思う。また、自由に意見を出し合い自分たちで  
カテゴリー分けする方がやりやすいように感じる。限られた時間でより広く深く議論するための手立て  
を今後検討する必要がある。

△授業前に本時のねらいや生徒の実態について、授業者にお話ししていただく機会があるとありがたか  
った。

△今回は、教師と生徒との間にやりとりがあったが、生徒間でのやりとりがもっとあったらよかった。生  
徒の実態に合わせてレベルを変えたら良い。

△勇気をもって発表してくれた生徒に対して教師からのフィードバックがもっと大ききであるとよいと感  
じた。

●今日初めて本文を扱ったということで、生徒全員が本文の内容をしっかり理解できているのか疑問。

●ワークシートを活用していたが、ノートは使用しているのか疑問に思った。生徒たちは自分で復習する  
際に何を用いて復習するのか見えてこなかった。

△会場校の校長先生からは、「アドバイザー配置事業の時間確保のため、オリエンテーションを省略する  
ことと、研究授業に関する部会協議は60分以内で行うことを大会資料に記載し、参加会員に理解を求め  
てはどうか」との助言をいただいた。第63回研究大会への申し送り事項としたい。

△部会協議の時間が不足している。今回のようにオリエンテーションを省略する等の対応が必要である。

●部会協議においては、小グループでの話し合いは活発である。一方で全体協議となると、発言等がやや  
消極的になる傾向がある。進行の在り方に工夫が求められる。

△今後の小学校での授業の変化に対応した授業・発表内容、協議内容が必要になるであろう。同様に、  
英語を多く使用する授業のあり方も考えていかねばならない。(富山)

●同じ会場校の社会部会でアドバイザー講義があり、時間を合わせなければならないため、授業の最初の  
オリエンテーションの時間を持つことができなかった。

△研究発表は、高岡市、氷見市、射水市の3市で当番制にして行っているが、授業力向上アドバイザー  
事業の講演会が入ると、当番制の順番がずれるときがある。今後、どのような順番で発表を進めてい  
くか考慮する必要があると思われる。(高岡)

△単元目標と評価基準を明確にする必要がある。新学習指導要領は国版のCAN-DOリストであるため、現  
在、市や学校で使用しているCAN-DOリストは、新学習指導要領を参考に見直しする必要がある。

●コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にし、生徒がこの3つを意識して取り組めるような活  
動にする必要がある。

●振り返りで、本時のゴールを明確にし、生徒に伝わりやすいようにすると、よかったと思う。

△活動時にタイマーをホワイトボードに映していたが、生徒はあまり見ていなかったようなので、個々  
にタイマーを持たせるとよいのではないか。

△今年度より、小学校で外国語科の授業の移行期間が始まった。中学校でもこれから改善していかなく  
てはならない。Can-Doリストの見直しをしてほしい。常に修正し、生徒をイメージして作り、利用し  
てほしい。(砺波)

### III

●会場校は前年度中に決定し、授業者は今年度当初に英語科の教員構成(所属学年。経験年数等)を考慮  
し選定した。新川地区の会員数(名簿上は56名)からすると、研究授業を2つ以上行うことが望ましい  
形と認識していたが、会場校英語科の事情により、それが実現できなかった。第63回研究大会の会場担  
当校においては、学校規模や教員構成を考慮した上で、より有意義な研究授業となるよう期待する。

△事前研修会と資料製本日を9月中旬に設定して、同日に開催できないか。(新川)

●大会そのものはスムーズに運営できた。しかしながら、他教科の大会と重なっており、会場校の教頭や  
教務主任には大変な思いをされたことと思う。(富山)

●両教育事務所を訪問して、指導案及び発表資料について指導主事から助言を受けたが、日程調整が難し  
く、8月後半の実施となってしまった。(富山)

### IV

○アドバイザーの平木先生のお話が分かりやすかった。自分が変わらないと駄目だなあとと思った。

(新川)

○平木先生のお話が分かりやすかったとの声が多く聞かれ、会場校の教頭(国語科、理科)からも「なる  
ほどと思う点が多かった」との感想をいただいた。

○現在の動向と私たちが知っておくべきことが盛り込まれており、毎年行われてもよい事業である。

(新川)

△見せる授業となると、どうしても「話す」ことを重視した展開になる。どのような言語活動がふさわし  
いのかを考えていかなければならない。(富山)

○夏季休業中の部会で検討した実践発表とは異なる先生の発表の協議に参加することで、全部員が2名の先  
の発表を見ることができた。

○参加者にはただ発表を聞くだけではなく、実際に活動してもらうなど、活発な内容となった。(富山)

△3市の中に教頭先生がおられる場合、部会責任者を教頭先生にお願いできればありがたいです。

(高岡)

●たくさんの先生方が参観に来られ、教室が少し狭く感じました。

●グループで話し合うために、事前に司会者を決めてあるとよかった。（高岡）

△アドバイザーの方が来られる年の発表の有無について、紙面発表をすることもあるが、しない年もある。

地区内で会場校のある市と研究発表をする市が重ならないように、共通理解を図る必要がある。また、研究発表の在り方について検討が必要だと思われる。各地区研究会の共同研究を発表するという形にとらわれず、ワークショップを行ったり、地区の研究会予算を使用して講師を招いたりなど柔軟に対応できないか。

△付箋を用いて授業全般について協議したが、協議の時間が短い場合は、予め協議する内容をしぼり、授業をみる視点について共通理解を図ると効果があると思われる。

●アドバイザーの講義は大変有意義であったが、時間が短かったのもっとじっくり聞けたらよかった。（砺波）

## V

△英語を母語とするALTの意見をもっと前面に出す機会を設ける必要がある。

△新川地区全体としての取り組みの流れがあるのであれば（小中連携、小学校英語の実践についての研修など）来年度の研修計画を立てる前に共有出来たらよいのでは。

△全国学力・学習状況調査に関する内容を取り入れた協議・指導助言（富山）

## <道徳部会>

### I

#### 【東部地区】

- 読み物資料と映像資料の違いや自作教材の扱い方等について考えることができた。
- 視点を絞り、少人数で話し合うことで、論点の定まった深まりのある協議を行うことができた。
- 日頃の学級運営や日常的に道徳的な環境を整えることの大切さを改めて感じた。

#### 【西部地区】

- 指導案に添付された「資料分析」の資料がたいへん参考になった。
- 道徳的諸価値を明かし、価値を深めるのにふさわしい場面で工夫された発問がされていた。
- 日頃の学級経営や道徳授業の積み重ねが話し合い活動の基礎となることを改めて感じた。
- 付箋を用いた小グループの研究協議では、短い時間の中で互いの意見を交換でき、深まりのある研修を行えた。

### II

#### 【東部地区】

- ねらいとする内容項目に迫ることができる発問の吟味。
- 生徒の思考を深めるための問い返し。
- 生徒同士が活発に意見交流できるような議論の場の設定。
- 生徒一人一人が自分の成長を感じられるような評価。
- 評価につながる授業改善。

#### 【西部地区】

- 教師自身の道徳的諸価値に対する理解。
- 資料（教材）分析の方法の研修。
- 生徒の考えを広げ・深めるための切り返しや問い返しの工夫。
- 「主体的・対話的で深い学び」を意識した道徳科の授業についての研究。

### III

- △8月末の運営委員会で、初めて指導案検討では意見が出しづらい。早い段階で指導案検討が行えればよい。
- △授業の方向性が、授業担当校（授業担当者）任せにならないようにする。県の研究主題、研究の構想に沿った授業研究になるように意識する。
- △大会当日の運営細案や反省事項等が申し送り事項として授業会場校間で引き継がれるようにする。

### IV

- 部会協議①と②の時間配分に苦慮した。
- 参加者が余裕をもって参観できるような授業会場の確保。
- アドバイザーの講義では、これまで抱いていた不安（評価の考え方、道徳性の育成について、教材（資料）の解釈）が解消できた。
- 授業力向上のための講義では、シンプルな基本発問、構造的な板書のあり方、机間指導の重要性、議論は二項対立だけではない、など今後の授業実践に参考になるご指導をいただいた。

### V

- △「より効果的な発問」「資料の取り扱い方」「道徳的諸価値の深い理解」「資料分析の方法」「指導案の立て方」などの研修をすること、研究内容を積み重ね、継続していくことが必要。
- 特別の教科としての評価方法についての研究を行う必要がある。
- △西部地区と東部地区の開催日を分けることはできないか。

## <特別活動部会>

### I

<東部地区>

○教師が見通しをもって計画を立て合意形成に向かって司会者やリーダーを育成がされていた。

**○ICTだけでなく、ホワイトボードの活用により各班の意見把握がしやすくなり、具体的な案が出た。**

<西部地区>

○合意形成を図る手段として、主観的な多数決ではなくボルダールールを活用したことでクラス全員の意見を広くくみ取ることができ、多数決では排除されがちな少数意見を拾うことができ効果的であった。また、総得点が高かった3つの案を多数決で1つに決めるのではなく、3つをまとめる形で話し合いを進めていたことも工夫されていた。

○教師がこうさせたいという思いを生徒の口から問題提起させることで、より自分たちのこととして話し合いに臨ませることができていた。

**○主体的に話し合わせる手立てとして取り組んでいる伏木中の「+10（プラステン）トーキング」が生きていて和やかな雰囲気の中で話し合い活動が行われた。**

○話し合いを円滑に効率よく行うために実践している「伏木中話し合いマニュアル」によって、相手を受け入れる言葉を多く発し、温かい雰囲気の中で話し合われた。

○行動目標を決めたあとの、教師の「具体的に…」の一言で、より実践しやすいものになるよう工夫されていた。

<両地区>

○本時の学習までに話し合い活動を積み重ねたことが、課題に対する切実感をもち、本時の話し合いを主体的にさせる手立てになっていた。

○話し合い活動に積極的に取り組む生徒の様子が印象的だった。学校全体で話し合い活動に毎週取り組んでいる成果が出ていた。

### II

●県の研究主題（副題）が「合意形成を目指す話し合い活動」となっていたため、学級活動(2)(3)が行いにくくなっていた。そのことが授業者への負担になったのではないかと反省させられた。（両地区）

●前回の話し合いで決めたルールをもっと意識させるべきという意見があったが、本時ではルールを変えることが前提にあったので、合意形成を図る前に方向性を全体で共通理解するという手立てが必要だったように思う。合意形成にいたるまでの話し合いについて研究していく必要性を感じた。（西部地区）

**●話し合いを活発に行うためには事前の準備が必要不可欠である。司会生徒の指導、話し合うための資料（アンケート結果、今まで出た意見内容等）準備等、生徒が主体的に意見を交わすことができるような手立てを工夫する必要がある。**

●終末で、生徒から支持の多かった意見を中心に実行していくよう促す言葉があり、表面的な合意形成に止まってしまっていた。合意形成を図るためには、様々な方法がある。どの方法が最適かを考えていく必要がある。

### III

△東部地区の大会であれば、事前研修会には、新川地区・富山市のすべての郡市部長に参加をお願いしたい。

### IV

**○部会責任者の先生が会場校や指導主事等と連絡を密にとられ、スムーズに行うことができた。**

●会場郡市の負担を減らすように、各郡市に協力をいただければよかった。

●参観した授業以外のもう一方の授業について、合意形成の手手法など授業実践で工夫した点を簡潔に共有できる場があればよかった。

○部会協議②では、できるだけ所属市に偏りがないように配慮した小グループで協議を行った。少人数の班であったことから意見交換しやすい雰囲気となった。また、他市での取組を共有する機会にもなった。

**○事前に司会者を決めて本人に伝えたことや、司会原稿が用意されていたことで、協議会がスムーズに進めることができた。**

●協議会の時間が少なすぎた。日頃なかなか特活の話ができないので、もう少し時間があれば他校の取り組みなど聞けて深い話ができたとと思う。（東部地区）

**○現場で活躍してこられた先生の講義であったため、中味も現実的でわかりやすかった。**

V

- △話合いの進め方や教員の指導のあり方、合意形成の方法等で悩んでおられる先生が多かった。悩みを共有したり、自分のやり方や事案について話をする機会が今後もあればよい。
- △アドバイザーの講演時間をもう少し短くすることができれば、十分な研究協議を行うことができた。特活部会の部員はほぼ毎年変わり、現場でもなかなか特活の研修の場はないため、協議時間を増やしてほしい。
- △年度当初の部会の時に、各郡市部長のメールアドレスを一覧で出して欲しい。（各郡市部長と連絡を取る手段がないため。）
- △各学校に郵便物を送付しようとしたが、新川地区・富山市のすべての学校に送ると、通信費がオーバーしてしまった。東部地区大会の場合は、送付の数が多いので、通信費の増額をお願いしたい。



## <特別支援教育部会>

### I

#### 【東部地区】

録画した授業をVTRで参観したことに関し

- （授業の実施後であるため）授業者から予め「参観の視点」を伝えてもらっていたことで、授業をただ漠然とみるだけでなく参観のポイントを絞って見ることができた。

**○三方向からビデオが撮られていたため、生徒の様子がよく分かった。（多数）**

- 授業に寸劇を取り入れたことに関し、生徒の興味関心が高まり、主体的に取り組んでいた。

#### 【西部地区】

**○VTRによる参観や別室での参観ではなく、授業会場で直接授業を参観することができてよかった。（多数）**

- 生徒が使用しているPC画面を映し出すことで、生徒の活動の様子が参観者によく伝わった。
- 2人の生徒が1台のPCを使うことで、生徒同士の関わり合いが自然と生じていた。また、関わり合いの中で声のかけ方が優しくなっていくなど、生徒の変容が顕著に見られた。

### II

#### 【東部地区】

- （特支級は実態がそれぞれ違うため、他の実践事例が適応できないため）必ず授業実践をしなければならないのか。
- 全体での意見交換よりも小グループの方が意見交換をしやすい。
- VTRでの参観を続けるのであれば、撮影ノウハウを引き継いでいくことが必要。

#### 【西部地区】

- 生徒に配慮しテーブルを衝立にする工夫があったが、それが高く生徒の活動の様子がよく分からなかった。生徒の関わりがよく観察できなくて残念である。（多数）
- 生活単元学習なのに視点は「自立・コミュニケーション」であったのが気になった。本時の授業は自立活動だったのではないか。
- グループ協議では、知障級と自情級で分けるとより情報交換ができた。

### III 大会前の諸準備、諸会合について（特に問題点や要望があれば）

#### 【東部地区】

- 運営がスムーズだった。（多数）

#### 【西部地区】

**○8月の地区研究会が最終の指導案検討会になれば指導案作成に余裕ができ、全員が当日の運営についての事前研修会に参加できたのではないか。**

### IV

#### 【東部地区】

- 講演をなくし、開始時刻を遅らせてほしい。（会場から遠い地区）
- 特支級に関わる先生の入替が多いことを考えると、細部まで想定した綿密な打ち合わせが必要だと感じた。

#### 【西部地区】

- 全体協議の形で行われた部会協議1では、意見や感想があまり出でこず沈黙が続くため進行が難しかった。部会協議2のグループ協議になると、各自の実践や悩みなどについて活発な意見交換がなされた。

### V

#### 【東部地区】

**△特支級の増加により、研究大会へ参加する教員が年々増加している。授業を中心に研究を進めていくことは大切だが、多くの先生方に見られることは生徒への心理的な負担が大きい。VTRによる授業観察もよいが、事例発表や教材研究などで研究協議を進めることも検討してほしい。**

△支援級の生徒は他の先生に任せることが難しいため、各校1名の参加にしてはどうか。

△研究大会の日を教科の日と合わせてほしい。支援級の生徒を残して出張するのは難しい。

#### 【西部地区】

△多くの人に見られることを嫌がる生徒が多く、授業の参観方法には毎年苦労している。授業がよいとか悪いとかではなく、他校の生徒に必ずしも生かせるものではないので、授業参観ではなく事例発表がよいのではないか。（多数）

- 改めて特支部会の授業研究の難しさを感じた。障害種別が違うことに加えて生徒の実態が違うことから協議への困難を実感する。

## <保健部会>

### I

- 健康教育を推進するためには、リサーチ（R）と計画（P）がとても重要だと再認識した。
- 全体指導から個別指導へのつながりを意識し、健康教育を計画し実行することが重要だ。「こころのものさし」を授業で使用し、保健室でも使用している点が良かった。**
- 教職員へのアンケート実施で指導のニーズを把握し、実践につなげている点が、教職員の連携を図るのに有効な手立てとなると感じた。
- 射水市の実践は、R-PDCAサイクルを意識し、組織的な取組を14年間も積み重ねており、健康教育が根付いていると感じた。養護教諭だけでなく、管理職や教諭も連携して実践している点がよい。
- 教材や資料が、生徒が自分のこととして考えられるように検討されていた。グループ学習では、何を話し合うのか指導案に明記されていて、分かりやすかった。**
- 生徒が「なるほど」と納得し、「なんとかしたい」と実践意欲が高まれば、健康教育は効果があるものになることが分かった。
- 教材のデータの地区共有は、授業実践できない学校でも掲示資料や個別指導、委員会活動でも活用できるので地区で共同研究する有効性があると感じた。
- 協議会では、事前に資料を読んで仮説に基づく視点でワークシートを事前記入する指示があったので、すぐにグループ協議が開始できた。また、2つの視点のうち1つ焦点化した話合いの指示もよかった。
- グループ協議中に提案発表者が巡回して質問に答えていたので、詳細な説明が聞けてよかった。
- 森先生の講演から、新学習指導要領で重視されている点を教えていただき大変参考になった。ガイダンス機能をもつ集団指導と併せて個別指導が重要であることや、がん教育を実施する上で留意しておくべきことが分かった。**

### II

- 各教科間のつながり、実践の継続に向けての手立て等が発表内容に盛り込まれるとさらによかった。
- 発表地区の参考資料が充実していたが、参考文献の記載があるとより参考になる。
- 全地区が集まっているので、発表地区の協議だけでなく、各地区の交流の場が少しでもあるとよい。
- 協議会の全体会では指名グループ以外に、自由に意見交換の場があってもよいと思った。
- 協議会ではよい点ばかりの意見交換となり、課題に関する意見が少なかったのが残念だった。

### III

△保健部会は提案発表だけなので、大会事前研では発表者は参加しなくてもよい。（地区部長で代行可能）

### IV

- アドバイザーの講義がとてもよかったので、出来ればもっと長く時間を確保してほしい。**
- 会場の速星公民館は、清掃と後始末を含めて17時には退出する必要があるので、時間調整が厳しい。
- 公民館では一般の利用者の方もいるので、受付や下足置き場等すべて、ホール内で設置するとよい。
- 協議会のグループ編成では、発表地区や運営委員の座席に配慮があると、運営がスムーズでよい。
- スクリーンは大きくてよかったが、しわがあつてははっきり見えないのが残念だった。

### V

△アドバイザー事業は、とてもよい話で参考になる。来年も参考になる話をぜひ聞かせてほしい。  
△養護教諭同士が連携すると、一人では成し得ない成果が期待できる。提案地区のように、地区で共同研究する体制を今後検討していけたら、健康教育を推進する上で学校間の差異がなくなりよいと思う。